

4月9日(日)開催 第3223回

単独例会

青春18切符で行く「福寿草咲く霊仙山」

布引支部 熊野健作

明日は遠出、朝早いから早く寝ないと、と思った前夜。邪魔をしたのは「鬼滅の刃」。遊郭編を前週からの続きで放映されたので、録画しときましょとセットしたのに、始めを見てしまったのが運の尽き、ついつい最後まで見てしまい、気が付けばもうすぐ日が変わる。慌てて寝ようとしたが、なかなか寝られず、うとうとはしたがもう4時。支度をしておにぎりを作って、5時20分に家を出る。朝食はコンビニで、と思ったが、三宮駅のコンビニは6時半開店。なんでや！と腹立たしく思っていると、順次皆さん集合。ギリギリ菓子パンを購入して6時38分の快速電車に乗車。大阪で新快速に乗り換え、パンを食べたらおやすみなさい、彦根に近づくまで寝てました。米原で大垣行きに乗り換え一駅、醒ヶ井に到着。予約してくれていたタクシーで醒井養鱒場へ。いよいよ登山開始です。



醒ヶ井養鱒場

種類の多い山だそうです。その魅力は歩いてみてわかりました。

今日は快晴、素晴らしい天気です。ヒヨコの皆さんの行かないの良さが窺えます。しかし、米原に近づいた時に目に飛び込んできたのは伊吹山の雪化粧。タクシーの運転手さんに聞くと、前日に雪が降ったと。なんでこの時期に？と思ったが、思わぬ恵みの雪だったことも確かです。雪景色を楽しめた。醒井養鱒場から、樽ヶ畑(くれがはた)登山口まで約50分、舗装路を歩くが、

霊仙山は、花の百名山や関西百名山に選ばれている名山。福寿草をはじめ、高山植物

途中落石が多く自動車通行止め。タクシーなら楽なのに、と思いながら楽しく歩く。



樽ヶ畑登山口

に到着。無人の様子だが、その周りから本格的に湿地帯のような上り路。2合目3合目と悪路が続く。下りてくる方たちとすれ違うが、皆さん靴がドロドロ。

ちょっと乾いたところはあるが、「上はもっとひどいよ、注意してね。」という



廃業している「かなや」

アドバイスを有難くもげんりしながら進む。全体的にはなだらかな上りだが、急登も時々あって、滑った方もいらっしやる。5合目6合目となかなかぬかるみが厳しい。後ろに見える伊吹山と琵琶湖は絶景。だんだんと樹林の間隔があいてきて、「誰かの頭の様。」という突っ込みに私の頭はツルッパゲとボケる。



樹木が少なく・・・

目に出ると、周りの景色が一変、高い樹木がなくなり、岩と草原になる。石灰岩のカルスト台地となり、松などはほとんど枯れていて、「なぜこの風景になるの？」と思いながら歩く。「お猿岩」を見ながら、「お虎ヶ池」に到着し昼食

樽ヶ畑登山口から山道に。前々日の雨、前日の雪のせいでヌルヌル道。登山計画を提出し、少し歩くと山小屋「かなや」

その樹木の間から頂上が見えるが、そこも雪化粧。1,084mの山なのに、六甲山とは景色が違う。7合

をいただく。草原なので、風が冷たく、ビールを飲もうと思わない。周りを見渡すと、鹿の糞が転がっている。鹿さんのトイレかな？



昼食後は草原を歩くが、雪渓まであってちょっとこじんまりした北アルプスの様。このワイドな景色は六甲山で

お猿に見える？（猿が岩）

は味わえない。「一度行ってみたかった。」という坂田姫の言葉にも納得。高山植物もちらほらと見えて、小さな可憐な花が…寒そう！樹木が枯れて草しかない山は、吹きさらしで寒い！



お虎ヶ池（霊仙神社）

風がないと暖かいのに！山頂（1,085m）と最高点（1,095m）を制覇し（なんで2つやねん？最高点を頂上にしたらええやん？）その雄大な景色、琵琶湖から伊吹山、東には岐阜の山々を堪能しいよいよメインイベントの福寿草探し。カルスト台地のがれ場で落ちたら命のない急斜面を横に見て、石の間に咲く可憐な花を発見した時には疲れも吹っ飛ばす、ことはなく、早く帰りたい気持ちで一杯に。



伊吹山



霊仙山の最高点（左）と山頂（右）

帰りは来た道を下りようとしたが、「お虎ヶ池」の手前で鹿の大群に遭遇。「なんじゃあんなら、何しに来たん？」と言わんばかりの牡鹿の睨みに挨拶しながら「お猿岩」まで来ると別の群れに遭遇。サヨナラしつつ下り路へ。



霊仙山山頂で

朝はぬかるみだらけだったが、良い天気恵まれたのか乾燥していて足元の不安がなくなり快調に下山。予定より早めの登山口到着に皆安堵。



西南尾根の福寿草



鹿の大群

それほど高くないのに、雄大な景色と可憐な高山植物に満足した一日でした。この霊仙山を計画し、引率いただいた渡田リーダーに感謝いたします。

天候 晴れ

参加者 24名